

事業名：情報図書館コンピュータ室事業

情報図書館 主査（奉仕・事業）

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実							
施策	02 生涯学習の充実							
基本事業	03 生涯学習機会の充実							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

20歳以上の市民

手段（事務事業の内容、やり方）

講習会開催：各種パソコン教室を開催する

申込受付は窓口と電話で実施。

応募者多数の場合は抽選により受講者を決定。

コンピュータ学習室自由開放：パソコンを学習しようとする市民に自由に機器を使用させる。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

パソコンに身近に慣れ親しみ、情報収集、伝達などに利用できる市民が増える。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	20歳以上の市民	人	99,714	99,908	99,785	99,785
対象指標2						
活動指標1	各種パソコン講習会開催数	回	49	47	42	62
活動指標2	コンピュータ学習室開放日数	日	141	85	48	—
成果指標1	各種パソコン教室受講者数	人	394	340	317	620
成果指標2	コンピュータ学習室利用者数（パソコン教室を除く）	人	1,575	1,643	1,749	—
事業費(A)		千円	152	192	191	405
正職員人件費(B)		千円	4,816	5,611	5,469	5,477
総事業費(A+B)		千円	4,968	5,803	5,660	5,882

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者パソコン教室 29回 ・EPOC講習会 12回 ・はじめてのパソコン講習会 1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンボランティア謝礼 72千円 ・パソコン講習会講師派遣委託 60千円

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
事業を取り巻く環境変化
<p>パソコンの普及 情報図書館のパソコン教室は平成元年開館時に、図書館のコンピュータ管理及びパソコン利用教育、パソコンを利用した市民への情報提供が重要であるということで設置された。現在の初心者パソコン教室（ワードからインターネットまで）は、平成10年から開始しており、以前より抽選回数は減じているが、依然として需要は高い。</p>

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠 パソコン初心者への第一歩として、利用するきっかけとなる機会を提供し、営利目的のパソコン教室と比較し、より初心者向けの役割を果たすなど、情報格差の解消を目的としており、妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 パソコンそのものを趣味として活動することはもちろん、パソコンを利用することにより、生涯学習機会の充実に貢献している。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠 パソコン教室の受講者数は減少しているものの、学習室の利用者数は増加している。また、学習室の自由開放をニーズが多かったインターネット体験に変更するなど、内容の見直しを図った結果、計画どおりの成果をあげている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 受講者のアンケートなどから、発展的内容の講座を求めるなど今後の学習意欲が読み取れ、リピーターの受講者もいることから、向上の余地はあると考えられる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
ある なし	理由 根拠 受益者負担として平成17年度より受講料の徴収を行っており、平成20年からは1コース2,000円に増額した。利用者アンケートや講習内容を考慮した上で、事業の目的を達成するためには受益者負担のこれ以上の増額は難しく、更なるコスト削減は困難である。